



ギュンター博士は、今般の西アフリカにおけるエボラ出血熱の流行に当たりEU諸国で構成された現地検査診断グループのリーダーを務められていることから、エボラ出血熱流行の現状と新興感染症対策の最前線についてお話を伺います。また、同博士はBSL-4施設を有するベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所のウイルス部長でありBSL-4施設長でもあることから、BSL-4施設の重要性や役割、ドイツにおける施設稼働の現状についてもお話し頂きます。

ステファン・ギュンター博士による講演

biosafety

エボラ出血熱 および

BSL-4施設に関する

シンポジウム

Ebola
Virus



同時通訳あり

◆日時:平成27年11月25日(水)
16:00~17:30

◆会場:長崎大学医学部(坂本キャンパス)
良順会館ボードインホール

対象者:一般市民、学内教職員、学生、
行政関係者、学外の医療関係者

—入場無料—



ステファン・ギュンター博士プロフィール

現職:

ベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所(ドイツ・ハンブルグ市)
ウイルス研究部長(BSL-4施設長)

略歴:

1992年 フンボルト大学ベルリン 医学部卒業

1993-1998年 ハインリッヒ・ベッテ研究所研究員(ハンブルグ)

1998年 ベルンハルト・ノホト熱帯医学研究所ウイルス研究部門上級研究員

2005年-現在 同研究所ウイルス研究部長(BSL-4施設長、アルポウイルスとウイルス性
出血熱に関するWHO研究協力センター長)

BSL-4病原体研究の世界的権威であり、ロベルト・コッホ研究所(ベルリン)に新設されたBSL-4施設の設置にも携わられました。西アフリカのエボラ出血熱のアウトブレイクにおいてはEUの現地診断チームの長として活躍されています。